

										年
										昭 20
10	10	9	9	8	8	8	8	5	10	月
20	5	13	12	23	20	15	9	1	1	日
										概
<p>豊原において編成完結 爾后同地において兵事業務実施 編成改正後も引続き前業務を続行 開戦時の爆撃に備え各課を豊原市内に分散配置 日「ソ」開戦 停戦 下士官兵及び軍属を現地召集解除 武装解除 豊原中学校に收容 大泊に移動 大泊第五作業大隊に編入 大泊出發入「ソ」</p>										要
司令官 少将 柳 勇										摘要

豊原聯隊区司令部略歴

							昭	年 月 日	豊原地区司令部略歴
							20		
10	10	9	8	8	8	4			
							22	概 要	
<p>豊原において豊原聯隊区司令部の人員を主体として編成完結 爾后樺太地区の防衛業務に従事 日「ソ」開戦 停戦 豊原において武装解除 大泊に移動 大泊第五作業大隊に編入 大泊出發入「ソ」</p> <p>司令官 少将 柳 勇</p>								摘 要	

昭 20			昭 16	年	
5	4	3	8	月	
1	1	16	1	日	
<p>昭和十六年軍令陸乙第二二号により豊原において編成完結 各隊を次の如く配置しそれぞれ分遣隊及分駐所を設く</p> <p>本部（豊原） 留多分分駐所</p> <p>豊原分隊</p> <p>大泊分隊 富内分駐所</p> <p>上敷香分隊 敷香、内路、知取分駐所</p> <p>気屯分隊 古屯、浅瀬分駐所</p> <p>恵須取分隊 西柵丹分遣隊、安別分駐所</p> <p>落合分隊 泊居、栄浜分駐所</p> <p>真岡分隊 逢坂分駐所</p> <p>軍令陸甲第四六号により憲兵司令部、憲兵隊等臨時編成下令 編成完結、樺太地区憲兵隊と改称</p> <p>上敷香特設憲兵隊（第五分隊）を隸下に編入</p> <p>本部を豊原に置き大泊、上敷香^{気屯}、恵須取、落合に分駐</p>				概	要
				摘 要	

樺太憲兵隊（樺太地区憲兵隊）略歴

		至 自		至 自		至 自		至 自		至 自		至 自			
10	10	10	8	11	10	11	9	11	9	8	8	8	8	8	8
22	20	5	24	16	27	18	21	12	10	23	20	15	13	9	9
入「ソ」		大泊出発		大泊において武装解除		大泊分隊		豊原出発		豊原第九(旧第四)第五作業大隊に編入		豊原において武装解除		ごろままでに大泊分隊を除く外豊原の部隊本部に合流	
隊長 少佐 白瀬 宏															
<p>(上敷香特設憲兵隊(第五分隊)は昭和十八年八月一日憲兵司令官直轄として上敷香に設置され昭和十九年六月二十三日東京に転進し再度昭和二十年五月上敷香に移動したものである。)</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>各分隊とも各駐屯地付近において戦闘に参加</p> <p>停戦</p>															

年	月	日	概	要	摘要
昭	10	18	軍令陸甲第七二号により北方軍情報部臨時編成下令		
3	2	8	編成完結		
27	18	19	部隊本部を北海道におき北方軍情報部樺太支部を大泊に設置 次の如く部隊を配置し情報の収集に従事 本部(大泊)長 小佐 蟹江 元 敷香 支所長 大尉 橋本 豊富 気屯 支所長 中尉 小関 勝彦 恵須取支所長 大尉 森 正之 西柵丹支所長 曹長 南部 吉正 名好 支所長 嘱託 大久保 彌八 沢内 支所長 曹長 福永 隆行		
昭	10	27	軍令陸甲第二〇号により第五方面軍司令部臨時編成ならびに北方軍情報部復帰下令		
			編成ならびに復帰完結と同時に北方軍情報部樺太支部は第五方面軍情報部と改称		

樺太特務機関 (北方軍情報部樺太支部 第五方面軍情報部樺太支部) 略歴

						昭 20
	10	10	9	8	8	8
	20	5	1	23	15	9
	<p>日「ソ」開戦 敷香、気屯、恵須取部隊は大泊の本部に集結、その他の地区のものは部隊解散 武装解除 母校は豊原警察署に准士官以下は豊原中学校に收容され「ソ」軍の取調べ開始 有罪となつたものは豊原刑務所に收容さる。 大泊第五作業大隊に編入 大泊出發入「ソ」</p>					

				昭		昭	年	
				20	16	14	月	
8	8	8	8	4	8	7	日	
18	17	15	9	6	22	11	日	
<p>豊原着、同地第五国民学校に病院開設</p> <p>転営のため上敷香出發</p> <p>停戦</p> <p>日「ソ」開戦により軽患者は原隊に復帰せしめ病院全部豊原に移転の準備開始</p> <p>日「ソ」開戦</p>				<p>豊原に分院を開設</p> <p>分院長 中尉 岩佐博以下約三〇名</p>		<p>編成完結</p> <p>軍令陸甲第三五号により臨時編成下令（改編）</p> <p>爾後同地において各隊の患者の収容、療養、衛生兵の教育を実施</p> <p>母校約二〇名下士官、兵約三〇〇名看護婦約九〇名計人員約四一〇名</p> <p>伝染病管理室</p> <p>内科病棟（二） 外科病棟（二）</p>		<p>樺太上敷香において編成完結</p>
							概要	
							摘要	

上敷香陸軍病院略歴

				昭
				20
	10	10	9	8
	20	5	13	27
				23
<p>衛生兵の一部及看護婦を解除 豊原において武装解体 病院長以下職員約三〇名を残置し残置者は引続き豊原病院の業務を続行（他は 豊原出発同日大泊着 大泊第五作業大隊に編入 大泊出発入「ソ」 豊原病院の残置者は昭和二十年十二月八日まで同病院において勤務後分散行動 をした。</p>				
<p>院長 軍医 大佐 菅田 渡</p>				

							昭 20	昭 16	年 月 日	落 合 陸 軍 病 院 略 歴
10	9	8	8	8	5	8				
20	20	30	15	9		1				
							<p>樺太落合において編成完結</p> <p>第一飛行師団長の隷下に属し爾後同師団隷下各部隊の患者を收容した。</p> <p>第一飛行師団長の隷下を脱し第八八師団長の隷下に入る。</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>開戦後前線部隊の患者多数を收容</p> <p>停戦</p> <p>停戦により下士官兵軍属及軽患者を現地において召集解除</p> <p>その他の者は豊原に移動し同地武装解除</p> <p>大泊に移動、同日大泊第六作業大隊に編入</p> <p>大泊出發入「ソ」</p> <p>病院長 軍医少佐 大草重之</p>		概 要	
									摘 要	

<p>昭 14</p>	<p>昭 8</p>	<p>昭 5</p>	<p>年 月 日</p>	<p>第一独立守備隊司令部略歴</p> <p>通称号 満第一三六部隊、満第五七九部隊</p>
<p>明治四二年四月、満州（公主嶺？）において編成されたが、当時の状況については不詳である。 公主嶺に駐とんし、担任地域の警備ならびに討伐に任じていたが、以後、奉天に移駐した。 当時の隷下部隊ならびにその駐とん地は、次のとおり</p> <p>独立守備歩兵第一大隊……………奉天 ……第二大隊……………錦州 ……第三大隊……………安東 ……第四大隊……………通化 ……第五大隊……………鉄嶺 ……第六大隊……………鞍山</p> <p>各隷下部隊は、駐とん地付近の警備 編成改正により隷下部隊は次のとおりとなる。</p> <p>独立守備歩兵第一大隊</p>			<p>略 歴</p>	
				<p>摘要</p>

		昭 19		至自昭 16	
		8	8	8	7
		5	1	5	16
昭一九	中將 落合鼎五	昭一八	少將 石野芳男	昭一六	少將 山内正文
昭一四	少將 国分新七郎	昭一三	中將 坂井徳太郎	昭一二	中將 岩松義雄
昭一一	中將 園部和一郎	昭一〇	少將 三毛一夫	昭九	中將 井上忠也
<p>第一〇一警備司令部編成完結（第一独立守備隊司令部復帰完結）</p> <p>以後、改編まで奉天に駐とんし、隸下部隊の指揮に任じた</p> <p>編成完結</p> <p>臨時編成（甲）下令……関特演発令</p> <p>が出動した</p> <p>「ノモンハン」事変に、隸下部隊の一部（独立守歩第一、第三大隊から各一小隊）</p> <p>第四大隊</p> <p>第三大隊</p> <p>独立守備歩兵第二大隊</p>					

年			略	略	摘要
月					
日					
昭	昭	昭	<p>明治四一年二月、大連―奉天間の鉄道守備のため、編成された部隊であるが、当時の状況については不明</p> <p>第一独立守備隊司令官の隷下に属し、当時の編成ならびに配備は、次のとおり</p> <p>大隊本部……………公主嶺</p> <p>第一中隊……………郭家店（四平省）</p> <p>第二中隊……………公主嶺</p> <p>第三中隊……………公主嶺</p> <p>第四中隊……………長春（新京）</p> <p>以上の各駐とん地にあつて満州事変勤務</p> <p>大隊の一部は、吉林省、農安付近の戦闘参加</p> <p>大隊の一部は、十三家子付近の戦闘参加</p> <p>大隊の一部は、後秀水溝付近の戦闘参加</p> <p>配備は、次のとおりとなり、各駐とん地付近の警備</p> <p>大隊本部……………山城鎮（東辺道）</p>	<p>通称号 満第一三八部隊</p>	<p>独立守備歩兵第一大隊略歴</p>
8	7	6			
9	6	4			
12	4	2			

至自昭 昭 11 10	至自昭 昭 10	至自昭 昭 10	昭 9	至自昭 昭 8 8
4 2 12	11 9 7 5 12 3			11 11 10
18 25 1	30 24 2 20 19 31			12 10 8
<p>吉林省伊通県の春季討伐に参加</p> <p>東辺道地区の冬季討伐に参加（昭和十一年二月十九日に至る）</p> <p>東辺道（安東省、奉天省）地区の秋季討伐に参加</p> <p>東辺道（奉天省、清原県）地区の夏季討伐に参加</p> <p>第四中隊は、新京に移駐</p> <p>前年度より東辺道地区の討伐続行</p> <p>第四中隊……………郭家店</p> <p>第三中隊……………四平街（昭和九年九月三十日より）</p> <p>第二中隊……………開原（昭和九年三月三十日より）</p> <p>第一中隊……………鉄嶺</p> <p>大隊本部……………四平街</p> <p>配備は、次のとおりとなり、各駐とん地付近の警備</p> <p>以後、東辺道地区の討伐（昭和九年三月三十一日に至る）</p> <p>吉、奉省境地区の討伐</p> <p>第四中隊……………通化（東辺道）</p> <p>第三中隊……………朝陽鎮（東辺道）</p> <p>第二中隊……………柳河（東辺道）</p> <p>第一中隊……………郭家店</p>				

昭 14	至 昭 13	自 昭 13	昭 12
8	7	6	3
	4	14	80
			6 6 6 4
			80 3 22
<p>軍令陸甲第三号により、独立守備第一大隊編成改正、同日編成完結</p> <p>第一中隊は、鉄嶺より四平街に移駐、爾後同地の警備</p> <p>第三中隊は、四平街より西安に移駐爾後同地の警備</p> <p>各隊の配備は、次のとおり</p> <p>本部、第一中隊……四平街</p> <p>第二中隊……開原（四平市）</p> <p>第三中隊……西安（四平市）</p> <p>第四中隊……新京</p> <p>防衛担任地区変更のため、各隊はそれぞれ守備地を出発、奉天に移駐</p> <p>昭和十三年度第一期討伐に参加（奉天省、本溪県）</p> <p>配備の状況は次のとおりで、奉天地区の警備</p> <p>大隊本部……奉天</p> <p>第一中隊……四平街</p> <p>第二中隊……奉天</p> <p>第三中隊……撫順</p> <p>第四中隊……奉天</p> <p>「ノモンハン」事変に、一小隊（長、青山少尉）出動</p>			

		至 自				昭		昭	昭
						16		16	15
8	7 7	8	7 7 5	5		5		4	
1	31 28	5	16 24 26	21		20			
<p>配備に変更がなく、奉天地区の警備</p> <p>第一中隊の守備地変更により、配備は次のとおり</p> <p>大隊本部……………奉天</p> <p>第一中隊……………奉天</p> <p>第二中隊……………奉天</p> <p>第三中隊……………撫順</p> <p>第四中隊……………奉天</p> <p>部隊主力（除第三中隊）は、北支に移駐のため、奉天出發、同日、第三中隊は撫順出發、北支に移駐</p> <p>滿支国境通過</p> <p>同日、本部以下各中隊は天津着、同地付近の警備</p> <p>西部翼東、東部燕京道地区の肅正作戦に参加</p> <p>臨時編成（甲）下令</p> <p>編成完結</p> <p>本部以下各中隊は、移駐のため北支玉田出發</p> <p>滿支国境通過</p> <p>本部、第二中隊、第四中隊は、奉天着爾後同地付近の警備</p>									

昭 19					昭 18					昭 17		
5	5	1	1	10	10	10	9	9	9	不	8	1
5	2	6	4	30	29	27	23	15	8	明	4	14
<p>第一中隊および第三中隊は、奉天省、撫順着爾後同地付近の警備</p> <p>第四中隊は、移駐のため、奉天出發、同日大石橋着、爾後同地付近の警備</p> <p>第三中隊は、移駐のため撫順出發、同日鞍山着、爾後同地の警備</p> <p>同日、第四中隊は、大石橋出發、撫順着、爾後同地の警備</p> <p>第一中隊は、守備地変更のため、撫順出發、同日鞍山着</p> <p>第一中隊および第四中隊の主力は、討伐のため奉天出發</p> <p>滿支国境山海関通過</p> <p>滿支国境義院口通過</p> <p>駐屯地に帰還のため、熱河省青龍県出發</p> <p>同日滿支国境義院口通過</p> <p>滿支国境通過</p> <p>第一中隊は、奉天着、第四中隊は撫順着、それぞれ同地付近の警備</p> <p>第一中隊は、西南地区派遣のため、鞍山出發</p> <p>興安西省、林西着、同地付近の警備</p> <p>第一中隊は、原隊復歸のため、林西出發</p> <p>原隊(奉天)着、爾後同地付近の警備</p>												

	昭
	19
	7 6
	10 25
<p>大隊長</p> <p>至自至自至自至自至自至自</p> <p>昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭昭</p> <p>九八八六六五五三三二二八</p> <p>大 大 大 大 大 大</p> <p>佐 佐 佐 佐 佐 佐</p> <p>堀 大 黒 池 布 本</p> <p>重 石 須 田 施 間</p> <p>光 千 源 榮 安 貞</p> <p>里 之 之 昌 次</p>	<p>軍令陸甲第五五号により、独立守備歩兵第一大隊復帰下令</p> <p>復帰完結、同日、独立歩兵第二六九大隊に編入</p>

至昭18	自昭12	至昭11	自昭10	至昭9	自昭8	至昭7	自昭14	年	月	日	
3	6	5	11	9	3	2	12				
1	16	16	20	5							
<p>明治四十一年満州（地点不明）において、同地の鉄道守備のため編成されたが、当時の細部について不明</p> <p>部隊の主力は、奉天に駐とんし、第一独立守備隊司令官の隷下に属し担任地区における鉄道の守備に任じた。</p> <p>大隊は、次の配備により、担任地区の警備</p> <p>大隊本部……………奉天</p> <p>第一中隊……………奉天</p> <p>第二中隊……………撫順</p> <p>第三中隊……………奉天</p> <p>第四中隊……………奉天</p> <p>第三次三角地帯の冬季討伐に参加</p> <p>東辺道秋季討伐に参加</p> <p>東辺道地区討伐に参加</p> <p>各隊の配備に變動はなく、担任地域の警備</p> <p>部隊の主力は、奉天に駐とんし、担任地域の警備</p>											
								略	略	略	
								通称号	満第三八七部隊		
								独立守備歩兵第二大隊略歴			
								摘要			

昭 15						昭 14	自 昭 14			昭 13
8	9	9	8	8	7	8	2	2	7	3 3
21	29	28	13	12			17	10	1	31 5
<p>部隊の一部は山海関に駐とんし、圍境付近の警備 防衛担任地区変更にともない、移駐のため奉天出發 同日錦州着、同地付近の警備 部隊の一部は、山海関着、同日錦州着、以後同地付近の警備 奉天省、海城縣ならびに安東省岫巖、鳳城各縣にあつて第一獨立守備隊の第三期 討伐に参加。 大隊は、次の配備により、担任地区の警備 大隊本部……………錦州 第一中隊……………阜新 第二中隊……………山海関 第三中隊……………錦州 第四中隊……………鄭家屯 部隊の一部（当時の三年兵が主体）は「ノモンハン」事変に参加 第二中隊は、山海関出發 関東州界通過、同日周水子着、同地付近の警備 第二中隊は、周水子出發、同日関東州界通過 錦州着 大隊の配備に変更はなく、各駐とん地付近の警備 関作命甲第三四六号により、熱河省共産軍討伐のため各駐とん地出發</p>										

自昭 17			昭 16	至自 昭 15												
8	12	9	9	9	12	9	12	12	11	10	10	10	8	8	8	8
	30	27	20	1			28	27	6	14	12	10	28	26	24	22
<p>熱河省、承德着、同地付近の警備 部隊の一部は、承德出發 遼平県長沙子着、同日長沙子出發 豊寧県揚木柵子着、同日より討伐ならびに警備 揚木柵子出發 滿支国境（白馬関）通過 北支、密雲着、同地付近の討伐に参加、同日密雲出發、同日滿支国境（古北口）通過 熱河省、阜新着、同地付近の警備 旅大地区警備のため、阜新出發、同日遼東州通過 周水子着、同地付近の警備 部隊の主力は、第九獨立守備隊司令官の指揮下に入り熱河省地区より、滿支国境（古北口）通過、省境および北支地区の討伐に参加 部隊の一部は、錦州に駐とん 錦州出發、同日承德着、同地付近の警備 承德出發、同日滿支国境通過、事変地勤務 原隊復帰のため、密雲県出發、同日錦州着 部隊の主力は、第九獨立守備隊司令官の指揮下に入り、熱河省地区より滿支国境</p>																

至	昭 18	至	昭 18	至	昭 18	至	昭 18	至	昭 18	至	昭 18
	2	2	10	4	4	9	9	4	4	12	1
	10	13	10	5	1	13	10	4	4	4	1
<p>(古北口) 通過、省境および北支地区の討伐に参加 部隊の一部(第一中隊等)は、熱河省および滿支国境付近討伐のため、阜新出發 山海関通過、以後北支において警備 北支出發、同日山海関通過 阜新着 討伐のため阜新出發 山海関通過、以後北支において警備 第四中隊は、旅順要塞司令官の指揮下に入り、関東州周水子において要塞地区の警備 部隊の主力は第九独立守備隊司令官の指揮下に入り、熱河省境付近および北支、(北京北方地区)の討伐に参加 改編のため、各隊は旅順に集結 旅順において第二一派遣隊に編入(同日、独立守備歩兵第二大隊復帰完結)同日旅順出發</p> <p>注 第一一派遣隊の行動、概要 旅順↓蘇家屯↓安東↓京城↓釜山港↓博多港↓下関↓金沢↓新潟↓青森↓ 函館↓小樽(上陸訓練後、歩五旅司に合流)昭和十九年五月二十七日發↓幌 筵島着(昭和十九年六月二日)↓温彌古丹島着(昭和十九年六月九日)</p>											

昭	昭	昭	年月日	独立守備歩兵第三大隊略歴 通称号 満第二三三部隊	
7	6	5			略
		6			
		1	歴	摘要	
<p>昭7 奉吉線沿線の警備および匪賊の討伐</p> <p>昭6 奉天間の鉄道守備のため編成された。 （当時の細部については、不明）</p> <p>昭5 第一独立守備隊司令部の隷下に属し、編成をらびに駐とん地はつぎのとおり。 大隊本部……大石橋 第一中隊……鞍山 第二中隊……大石橋 第三中隊……大石橋 第四中隊……瓦房店</p> <p>担任地域の警備に従事 各駐とん地付近の警備および、三角地帯（奉天—安東—大連を結ぶ線内地帯）の討伐 部隊主力は龍江省の洮南ならびに白城子に移動し、四洮線の警備および沿線各 界の討伐。</p>					

昭 15	昭 14	自 13	自 12	自 11	昭 9	昭 8
	8		7			
					7	
						15
						<p>昭 15</p> <p>酒井支隊（第一、第四中隊）は、東辺道（臨江、通化、桓仁、寛甸各県）の討伐</p> <p>川村支隊（第三、第四中隊）は、通化、桓仁、寛甸各県の討伐</p> <p>部隊主力は三角地帯の大討伐（秋季および冬季）</p> <p>東辺道および本溪湖、小市を中心とする地域の討伐</p> <p>配備をつぎのとおり変更</p> <p>大隊本部……………連山関</p> <p>第一中隊……………鶏冠山</p> <p>第二中隊……………連山関</p> <p>第三中隊……………本溪湖</p> <p>第四中隊……………安東</p> <p>ノモンハン事変に混成一小隊（長西垣少尉）が、海拉爾經由で参加、行動期間は約六月</p> <p>注、要員は、歩兵砲関係者で、人員数は約三〇名</p> <p>独立守備歩兵第四大隊の移駐後、同大隊の守備担任地域の安奉線の警備ならびに蘇家屯以南地域の討伐</p> <p>前任務続行</p>

	昭 19	昭 18	至自 1918	至自 1817	昭 16
	7	7	6	5	11
	7	5	5	5	4
	10	25			
	<p>部隊は安東に移駐し、配備はつぎのとおり。</p> <p>大隊本部……………安東</p> <p>第一中隊……………大石橋</p> <p>第二中隊……………鞍山</p> <p>第三中隊……………本溪湖</p> <p>第四中隊……………安東</p> <p>東辺道地区の討伐</p> <p>部隊主力は、熱河省承德付近から、北支万里の長城付近の討伐ならびに警備</p> <p>部隊主力は、安東に帰着</p> <p>部隊主力をもつて北支、河北省山岳地帯の討伐</p> <p>部隊主力は、南方「ボナベ」島派遣の混成旅団に改編された後、安東に歩兵</p> <p>一中隊（三年兵をもつて編成）を残留</p> <p>滿支国境古北口通過、河北省、遼化泉馬蘭峪付近の討伐</p> <p>独立守備歩兵第三大隊復帰ならびに独立歩兵二七〇大隊臨時編成下令</p> <p>滿支国境古北口通過、承德を経て安東に帰着</p> <p>独立守備歩兵第三大隊復帰完結、独立歩兵第二七〇大隊に編入</p>				

至自 至自 昭 昭	昭	年 月 日	独立守備歩兵第四大隊略歴 通称号 滿第三五六部隊
6 5	2		
1111 9 9			
2523 2019		略	歴
<p>奉天省海城県湯崗子付近の戦闘参加</p> <p>安東省、鳳凰城の戦闘に参加</p> <p>右の編成ならびに各駐屯地において満州事変勤務</p> <p>第一中隊は、本溪湖より鶏冠山へ、第三中隊は連山関より本溪湖に移駐</p>		<p>明治四十一年二月二十七日、安奉線、草河口において編成、当時は予後備兵をもつて安奉線沿線の守備に任じていたが、その後鉄道も輕便より正規鉄道に切り換えられ、渡滿邦人の増加にともない現役兵をもつて守備するに至つた。</p> <p>編成および各隊の駐屯地は、次のとおり。</p> <p>大隊本部……連山関</p> <p>歩兵第一中隊……本溪湖</p> <p>同 第二中隊……連山関</p> <p>同 第三中隊……連山関</p> <p>同 第四中隊……安東</p>	
		摘要	

至自		至自		至自		昭		至自											
9	8	9	8	7	7	4	3	1	1	1	1	12	12	12					
20	1	22	3	14	9	25	15	26	7	8	18	29	27	24	6	252	1	19	10
<p>鳳凰城西南地区の匪賊討伐に参加 奉天省龍廟子付近匪賊討伐に参加 独守歩第三大隊長岩田中佐の隷下に属し奉天省法庫泉法庫門付近の匪賊の討伐に参加 奉天省王家崗付近の匪賊の討伐に参加 奉天省高家堡子付近の匪賊討伐に参加 奉天省吳家屯東方地区の匪賊討伐に参加 大黃柏峪付近の戦闘参加 奉天省草河城付近の匪賊討伐に参加 奉天省代家堡子付近の戦闘参加 鄭通支隊(独立守備第五大隊)に属し、通遼にあつて鄭通線の警備通遼の戦闘に参加 独立守備歩兵第五大隊長の指揮下に入り、四平街にあつて待機 錦州省釣魚台の戦闘参加 中東南部線東方地区の兵匪の討伐 三角地帯(安東——奉天——大連を結ぶ線内地帯)の匪賊討伐に参加 東辺道地区(臨江、桓仁、寬甸、通化の各県下)の討伐に参加</p>																			

昭 14	昭 至自 12 12 10
8	以 11
降 4	
<p>（この間、九城——寛甸県通過、桓仁県に到着） 桓仁県内において戦地勤務 この間においてはほとんど討伐は実施しなかつた。 本部および各中隊の配備はつぎのとおり</p> <p>大隊本部……………連山関 第一中隊……………鶏冠山 第二中隊……………連山関 第三中隊……………本溪湖 第四中隊……………安東</p> <p>以上の配備により、奉天——安東間鉄道沿線の警備 部隊全員、通化省に移駐、配備は、つぎのとおり。</p> <p>大隊本部……………通化 第一中隊……………臨江 第二中隊……………通化 第三中隊……………本溪湖 第四中隊……………輯安</p> <p>以上の配備を基点として東辺道地区の討伐に、第三中隊を除き、ほとんど全力</p>	

	昭 17	昭 17	昭 17			昭 16	至自 15 14		
11	11	7	1	7	7	4	3 10	8	
25	24	29	16	30	16	25	31 1	17	
	<p>を集中した。</p> <p>第三中隊は、移駐のため、奉天省本溪湖出發、同日奉天省西安着、同日より同地の警備</p> <p>第三中隊は、奉天省海龍県、通化省輝南県境通過、同日より輝南県、濛江、撫松県内にあつて外国擾乱地勤務</p> <p>第三中隊は、守備地変更のため西安出發、同日四平街着、同地の警備</p> <p>臨時編成（甲）下令</p> <p>編成完結</p> <p>第三中隊は、駐とん地変更のため、四平出發</p> <p>同日奉天着、同日より同地付近の警備</p> <p>第三中隊は、独司作命第三四号により、北支那肅正討伐のため、奉天出發</p> <p>部隊の主力（第三中隊および駐とん地残留員を除く）は、独司作命第四三号により、西南地区討伐に参加のため、通化出發</p> <p>清原県境通過</p>								

昭											
18											
3	2	2	12	12	12	12	12	12	12	11	11
2	17	9	30	26	23	15	9	6		30	27
<p>承德着、同日第九独立守備隊の指揮下に編入 承德出發、同日興隆県興隆着 興隆県下および満支国境付近の討伐に参加 第九独立守備歩兵第一三大隊に配属、同地付近の討伐に参加 第三中隊は討伐のため奉天出發 興隆県茅山出發、同日満支国境通過、同日河北省薊県青山嶺着、同地付近の戦闘に参加 同県黄隆関出發、同日満支国境通過、興隆県城着、同県にあつて肅正工作に参加 第三中隊は、満支国境馬蘭関通過同日より北支遵化県にあつて討伐に従事 満支国境鮎魚関村通過、河北省薊県馬蘭峪着、同地付近の討伐に参加 大河峪付近の戦闘に参加 冷垠頭付近の戦闘に参加 楊樹溝付近の戦闘に参加 小鹿洞付近の戦闘に参加</p>											

昭								
19								
	3	1	1	11	11	11	7	4
		27	26	24	6	6	30	4
	<p> 藪泉、遵化県境通過、遵化県にあつて討伐参加 第三中隊は、滿支国境、馬蘭関通過、同日北支河北省遵化県にあつて討伐に従事 転進のため、遵化県出発、同日滿支国境龍井関通過 熱河省青龍泉双山子着、同県下にあつて討伐に参加 第三中隊は、帰還のため、滿支国境、馬蘭関通過 同日興隆着 第三中隊は、転進のため、興隆出発 北支河北省撫寧省着、同日撫寧県下にあつて討伐に参加 現在の本部および各中隊の駐とん地は、つぎのとおり。 本部、第二中隊、第四中隊……通化（通化省） </p>							

		昭			
		19			
		4	4	4	4
		29	14	9	7
		<p>第一中隊……………臨江（通化省）</p> <p>第三中隊……………西安（四平省）</p> <p>関総参編第二五九号により、編成下令</p> <p>同日、各中隊は、原駐地に帰還のため、現在地を出発</p> <p>各中隊は、原駐地に復帰完結、同地において第一一派遺隊を編成（独守歩第 二大隊とともに、部隊の主力となる）</p> <p>関東州境通過、旅順着</p> <p>旅順出発</p> <p>注、第一一派遺隊（旅司、独守歩2大・同4大）の行動、概要</p> <p>旅順↓蘇家屯↓安東↓京城↓釜山↓博多↓下関↓金沢</p> <p>↓新潟↓青森↓函館↓小樽（上陸訓練実施後歩五旅司に合流）</p> <p>昭和十九年五月二十七日発↓幌筈島着（昭和十九年六月二日）↓</p> <p>温彌古丹島着（昭和十九年六月九日）</p>			
	部長	中佐	山口	金	吾
"	"	"	板	津	直
"	"	"	中	代	豊
			次	郎	

至自 昭昭 1413												昭 13	至自至自至自至自至自至自 昭 12														
9	5	8	2									4	8	8	8	8	7	4	8	12	11	10	9	7	6	2	
6												1	18	16	16	1	31	1	30	1	30	1	30	1	30	28	
<p>「ノモシハン」事変応急派兵下令、同日編成完結</p> <p>大隊の一部は、奉天省、西安にあつて同地付近の警備</p> <p>大隊の一部は、通化省八道江にあつて同地付近の警備</p> <p>大隊は、次の配備により各駐とん付近の警備</p> <p>同日より、錦承線の警備ならびに熱河省の防衛</p> <p>熱河省境通過、同日熱河省寧城県平泉着</p> <p>移駐のため、通化出發</p> <p>通化省通化県において昭和一一年度第三期討伐に参加</p> <p>通化省通化県において昭和一一年度第一期討伐に参加</p> <p>通化省通化県において昭和一二年度第二期討伐に参加</p> <p>大隊本部……………通化(通化省)</p> <p>第一中隊……………牛毛搗(安東省、寛甸県)</p> <p>第二中隊……………柳河(通化省)</p> <p>第三中隊……………輯安(通化省)</p> <p>第四中隊……………通化(通化省)</p> <p>昭和一一年度第二期後期討伐に参加</p> <p>通化省通化県において昭和一一年夏季討伐に参加</p> <p>通化省通化県において昭和一一年春季討伐に参加</p>																											

	昭				
	15				
	3	10	9	9	9
	1	1	27	25	8
	<p>東安省、東安に移駐</p> <p>(同日独立守備歩兵第五大隊復焔完結)</p> <p>軍令陸甲第一四号により、歩兵第八九連隊に編入</p> <p>錦州省錦州着、同日復員完結</p> <p>阿爾山出發</p> <p>興安北省、阿爾山着、第三獨立守備隊長の隸下に入る。</p>				
	昭	昭	昭	昭	昭
	九	一〇	一〇	一〇	一〇
	八	九	八	七	六
	大	大	大	大	大
	佐	佐	佐	佐	佐
	脇	鈴	木	貞	二
	坂	次	三	郎	郎
	隆	根	田	瓦	大
	根	隆	隆	隆	隆
	改	昭	昭	昭	昭
	編	一	一	一	一
	時	三	二	一	〇

昭 5	昭 4	年 月 日
<p style="text-align: center;">独立守備歩兵第六大隊 略歴</p> <p style="text-align: center;">通称号</p>		
<p style="text-align: center;">概 要</p> <p>奉天省連山関等において編成完結、同日より第一独立守備隊司令官の隷下に入る。</p> <p style="text-align: center;">編 成</p> <p>大隊本部 歩兵中隊……………四</p> <p>同日より、次の配備により、各駐とん地付近の警備</p> <p>大隊本部……………連山関（奉天省）</p> <p>第一中隊……………煙台（ ” ）</p> <p>第二中隊……………鞍山（ ” ）</p> <p>第三中隊……………連山関（ ” ）</p> <p>第四中隊……………安東（安東省）</p> <p>各隊の配備は、次のとおりとなり、各駐とん地付近の警備</p> <p>大隊本部……………鞍山</p> <p>第一中隊……………煙台</p>		
<p style="text-align: center;">摘 要</p>		

昭8	自昭7										昭6							
2	12	9	6	5	4	3	12	11	9	9	9							
12	18	28	12	31	3	19	28	27	25	22	20	18						
部隊の一部は、東遼道地区の警備	第一中隊は、三角地帯の討伐に参加	大隊主力は、煙台炭坑東側地区の討伐に参加	第二中隊は、管盤付近の討伐に参加	部隊主力は、大遼河沿岸老北風の討伐に参加	部隊主力は、牡丹江流域地帯（敦化—海林）の反吉林軍の討伐に参加	部隊主力は、一部を残置し、原駐地に帰還	道警備	部隊主力は、第一一師団の斉斉哈爾方面追撃戦のため、江橋—四平街間の鉄	道警備	羽山支隊は解散、第一中隊は四平街に駐とんし、同地の警備	部隊主力は、一時原駐地に帰還	各地区の警備	羽山支隊（第一中隊等）は、四平省鄭家屯ならびに龍江省洮南方面に出勤し、	部隊主力は、新京に進出	部隊の一部（歩兵中隊、二）は、奉天北大管の追撃戦に参加	第四中隊………本溪湖	第三中隊………鞍山	第二中隊………鞍山

昭 11	昭 9	時期不明	6	4	3
7	6	初春			
				29	2
<p>部隊の一部（混成中隊）は、錦州方面に出動 第二中隊は、營盤南方下沙湍付近の戦闘に参加 各隊の配備は、次のとおりで各駐とん地付近の警備</p> <p>大隊本部……………鞍山 第一中隊……………煙台 第二中隊……………鞍山 第三中隊……………鞍山 第四中隊……………本溪湖</p> <p>鞍山西地区ならびに三角地帯の大討伐に参加 各隊の配備は、次のとおりとなり、各駐とん地付近の警備</p> <p>大隊本部……………溝帮子<small>こうばんず</small>（錦州省） 第一中隊……………溝帮子（"） 第二中隊……………綏中（"） 第三中隊……………凌源（熱河省） 第四中隊……………錦泉（錦州省）</p> <p>東辺道地区の討伐に参加 第四中隊は、守備地変更のため、清原に移駐 大隊本部は、撫順に駐とんし、隷下部隊の指揮に任じた。</p>					

昭二六三三行

				昭 14	昭 13	昭 12
				10	9	8
				1	27	初旬
				1	27	初旬
<p>現在の大隊本部以下各隊の配備は、次のとおりで、各駐とん地付近の警備</p> <p>大隊本部……………撫順(奉天省)</p> <p>第一中隊……………興京(")</p> <p>第二中隊……………桓仁(安東省)</p> <p>第三中隊……………撫順</p> <p>第四中隊……………清原</p> <p>本年度においては、主として東辺道地区の警備ならびに討伐を実施</p> <p>第二中隊は、桓仁から、奉天省西安に移駐、東辺道地区の討伐に参加</p> <p>第二中隊は、「ノモンハン」事変参加のため、部隊主力に合流</p> <p>大隊主力は、「ノモンハン」事変参加のため、興安北省海拉爾に出動</p> <p>停戦協定成立により、撫順に復帰</p> <p>軍令陸甲第一四号により、錦州省錦州^県において歩兵第八九連隊に編入</p> <p>(同日、独立守備歩兵第六大隊復帰完結)</p> <p>注、編成完結後、東安省東安に移動</p>						
大	中	中	中	中	中	中
隊	佐	佐	佐	佐	佐	佐
長	長	長	長	長	長	長
	初	初	初	初	初	初
	代	代	代	代	代	代
	代	代	代	代	代	代
	上	上	上	上	上	上
	田	田	田	田	田	田
	利	利	利	利	利	利
	三	三	三	三	三	三
	郎	郎	郎	郎	郎	郎
	平	平	平	平	平	平
	京	京	京	京	京	京
	永	永	永	永	永	永
	岩	岩	岩	岩	岩	岩
	永	永	永	永	永	永
	石	石	石	石	石	石
	津	津	津	津	津	津
	経	経	経	経	経	経
	吉	吉	吉	吉	吉	吉
	巖	巖	巖	巖	巖	巖
	四	四	四	四	四	四
	谷	谷	谷	谷	谷	谷
	中	中	中	中	中	中
	佐	佐	佐	佐	佐	佐